愛知・今町 遺跡

所在地 愛知県豊田市今町八丁目

調査期間 二〇〇六年(平18)四月~六月

発掘機関 財愛知県教育·スポーツ振興財団愛知県埋蔵

3 2

文化財センター

7 遺跡の年代 戦国時代~江戸時代

6 5

遺跡の種類

集落跡

調査担当者

宮腰健司・鈴木正貴・

岡久雅浩

今町遺跡は矢作川の中流域にあり、 遺跡及び木簡出土遺構の概要 矢作川西岸に近接する碧海台

川・大谷川の合流点があり 置する。 碧海郡を分ける矢作川・巴 近には旧加茂郡・額田郡 地南東端部に立地する。付 遺跡は加茂郡の南東端に位 遺跡の北側には戦

田) が所在する。これまでに一 国時代に創建された常行院

> えられる。 時代中期までの屋敷が七区画確認されている。屋敷地は溝で囲まれ 点出土した。共伴の陶磁器などからみて、一七世紀後半のものと考 水溜状遺構などが存在する。木簡は、B区の井戸SK三〇〇から一 た一辺が二○m~三○mの不整方形で、内部に掘立柱建物・井戸・ 前調査で、二○○○㎡の面積をA区~C区の三区に分けて発掘した。 一九九八年度と二〇〇六年度の調査区域では、戦国時代から江戸

木簡の釈文・内容

二月□二日	(1)

□□月カリー] [日 カ [右衛門カ]

日付や数値などが記載されていることから、荷札の可能性がある。

 $(128) \times 33 \times 2$ 019

関係文献

9

九九八年度と二〇〇〇年度

町遺跡Ⅱ』(二○○九年刊行予定 |財愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター『今

(鈴木正貴)

った。二〇〇六年度調査は第二東名高速道路の調整池建設に伴う事 に第二東名高速道路の橋脚建設予定部分(当時)で発掘調査を行な

2007年出土の木簡

